

令和8年度
小学校移転・統合に係る説明会について
(対象：保護者・地域のみなさま)

安芸市では、南海トラフ地震の津波から、子どもたちの命を守るための学校移転が喫緊の課題となっています。また、児童の減少が進み、将来の小学校再編も課題となっています。

このような状況の下、子どもたちの命を守り、教育環境のさらなる充実をめざし、基幹となる小学校1校と、小規模校（小規模特認校）1校の市内2小学校体制（[うら面をご覧ください](#)）とする移転・統合方針を市長が表明しました。

つきましては、保護者・地域の皆さまを対象とした移転・統合方針の説明会を開催いたします。

開催日程 19：00 開始

日 付	場 所
10／20（火）	下山小学校（2 階児童会室）
10／23（金）	川北小学校（南舎 2 階パソコン室）
10／29（木）	土居小学校（2 階音楽室）
11／ 9（月）	井ノ口小学校（多目的室）
11／18（水）	安芸第一小学校（西体育館）
11／19（木） 40／26（月）	伊尾木小学校（2 階図書室） ※事前復興まちづくり計画ワークショップ と日程が重複していたため変更しました。
11／27（金）	穴内小学校（ランチルーム）
11／30（月）	赤野小学校（1 階研修室）

お問合せ
安芸市教育委員会 学校教育課 35-1021

安芸市の現状

（小学校の現状）

- 進む老朽化（校舎の多くは昭和 40・50 年代（約 50 年前）に建築）
- 8 校中 6 校が津波浸水区域内に位置する
- 8 校中 5 校で複式学級を運営

（人口・児童の減少）

	平成 18 年度 （2006）	平成 28 年度 （2016）	令和 8 年度 （2026）	令和 16 年度 （2034）
安芸市の人口	21,050 人	18,100 人	15,087 人	
小学校の児童数	1,022 人	760 人	473 人	273 人

- 令和 8 年 3 月末の 0 歳児人口は、38 人※令和 16 年度の小学 1 年生

小学校移転・統合の目的

- 南海トラフ地震に備え、子どもたちの命を最優先した移転
安全な場所へ移転することで、南海トラフ地震の津波から子どもたちの命を守ります。
- 児童が減少するなか将来を見とおし、教育の質と持続可能性を確保する
統合により教員の負担を軽減し、授業研究や子どもと向き合う時間を確保することにより、教育環境の充実と児童数の減少に対応した持続可能な学校運営を実現します。
- 教育予算の集中投資により、学びと教育の質を向上させる
施設・設備・人材を充実させ、将来に渡り子どもたちの学びの質を高めます。

小学校の移転・統合の方針→うらへ

○次のお知らせも合わせてお読みください。
今月号折込：令和8年度小学校移転・統合アンケート調査結果（保護者・教職員）の公表
8月号折込：令和8年度 市立小学校の移転・統合方針について

小学校移転・統合に関する資料は安芸市ホームページで公開しています。

<https://www.city.aki.kochi.jp/life/dtl.php?hdnKey=8677>

発行：安芸市教育委員会学校教育課



小学校移転・統合の方針（市内2校体制）

小学校は児童を育む教育の場であることを大前提とし、児童の学びの環境の充実を中心として、総合的に検討した結果、以下の2校体制を方針としました。

○基幹となる1校（市立安芸中学校東隣） ※R8.6月 表明

児童数が減少するなかであっても将来を見とおし、教育の質と持続可能性を確保します。

○計画に向けたイメージ案（安芸中学校東隣に小学校を一体整備）



- （理 由）
- 子どもたちの命を最優先
津波浸水区域外である
 - 教育の質と持続可能性を確保
児童数の減少を見通した教育環境を整備
 - 教育環境の優位性
小中学校が隣接し、最も連携が図られ、義務教育9年間を見通した教育環境となる。

○行きたくなる学校、行かせたい学校

○魅力ある学校施設・教育環境

- 児童の安全を確保し、集団のなかで、多様な考え方にふれ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することにより、一人ひとりの資質・能力を伸ばすとともに、社会性や協調性、たくましさを育みます。
- 市立安芸中学校と敷地を一体化することにより小中学生の交流と人的・物的資源の共有・補完を図ります。
- 令和16年度開校を目指します。（現段階の概算工事費は65億円を見込んでいますが、国県からの有利な財政支援があります。）

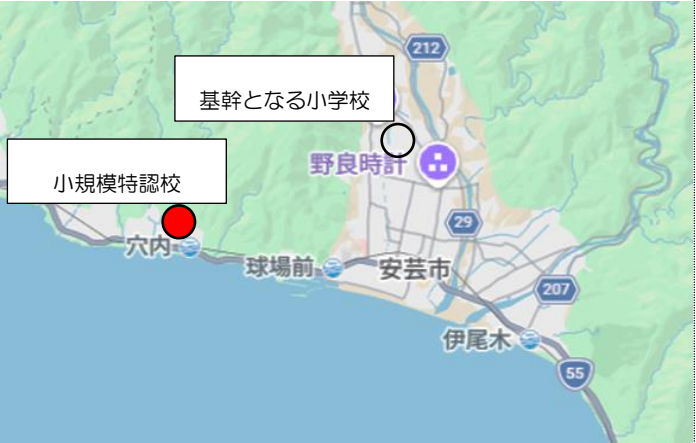
（放課後児童クラブ ※学童保育）

新設する小学校に併設 ※校舎内か別棟か検討



○小規模特認校1校（穴内小学校） ※R8.9月 表明（新）

学校の選択肢や小規模ならではの教育を受けたいニーズにも応えます。



- （理 由）
- 子どもたちの命を最優先
津波浸水区域外である
 - 基幹校との配置バランス
基幹校との位置、距離および、市内配置のバランスを考慮
※津波浸水区域外の既存校（井ノ口小学校、穴内小学校）から1校を選択。

○行きたくなる学校、行かせたい学校

○豊かな自然・地域資源を活用した教育環境

- 豊かな自然と地域に根ざした体験・探究学習を通じて、一人ひとりの個性や学びのスタイルに応じた多様な学習機会を確保し、自ら考え、自ら学ぶ力を育みます。
- ※小規模特認校は、小規模校の特性を生かした教育活動を推進する学校で「学びたい・学ばせたい」という希望者に対し、一定の条件のもと、区域外からの児童も受け入れる学校です。

（放課後児童クラブ ※学童保育）

開設を検討



（通 学 ※スクールバス）

これまでの案は、通学距離が概ね2km圏内は徒歩通学、1～3年生は概ね2km以上でスクールバス、4年生以上は概ね2km～4kmで自転車通学、4km以上でスクールバスでした。 ➡ アンケート結果、保護者からの意見収集、開校準備委員会（設置予定）で協議し決定する予定です。